

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792510034		
法人名	社会福祉法人啓和会		
事業所名	グループホーム西会津しょうぶ苑 おとめゆり		
所在地	福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙3229番1		
自己評価作成日	令和6年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和6年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が限りなくグループホームでの生活が続けられるように、ご家族様の要望に応えながら身体機能、認知面の低下を防ぐ為の知識、技術について向上に努めている。また、地域の関係機関と連携を図り、特に医療面でのサポートについて医療機関と密に情報交換を行い、生活の支えとして日頃から緊急時に備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を地域の方に知って貰えるよう、広報の在り方を検討し、事業所の持っている資源を利用して貰えるようにしたいと考えている。利用者本位の支援を目指し、職員からの意見や要望をどのようにして出しやすくするかを考え、出された職員の思いを活かし実現するために取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の職員会議で理念の共有に努めている。	利用者、家様、職員が笑顔になれる場所でありたいを理念とし、職員から提案の提案をもとに話し合い、作成している。日々の中で、利用者、家族、職員の表情を見て満足の声を貰えた時に理念が活かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	運営推進会議や町の会議等で交流を深めている。	事業所の活動を知って貰えるよう、年4回事業所の広報誌を町内会の回覧板で回して貰っている。中学生の職場体験を受け入れ、利用者との会話や調理の一部を体験して貰っている。町の行事に参加地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、地域の方に認知症に対する理解を深めて頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	利用者様の状況報告や行事の報告、事故報告等を行い、情報の内容に疑問があれば、その場で質疑応答を行い納得、ご理解をいただいている。意見やアドバイスはサービスの質の向上に役立っている。	民生委員の方から、事業所見学の機会を増やしてほしいとの要望があり、事業所として町の施設に関する実態、実情を知ることから始め、広報活動が不十分であると認識し、広報活動の在り方を見直すきっかけにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月定期的に地域のサービス調整会議に参加し、情報交換や共有を行っている。	利用者・家族に関する困難ケースの対応策について相談している。利用者の紹介、研修の案内、他事業所の状況等を受け取っている。毎月、関係者が集まる会議への参加、運営推進会議の場で情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止の会議を開催し、意識、周知、共有を図っている。	身体拘束をしないケアについて職員に指導、周知を行い、全ての家族に説明をしている。職員同士互いに注意しながら意識付けしている。言葉の拘束については、気づいていないことがあり、職員の思いも汲み取りながら指導している。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議を開催し、虐待について話し合い、日々の業務の振り返りをしながら虐待防止の意識付けに取り組んでいる。	法人開催の研修や身体拘束・虐待防止委員会を開催し、繰り返し指導、周知することで意識付けを図っている。管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響しないよう、日常の声掛けや1対1の会話に耳を傾けるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入所されていた方の記録、経験等から成年後見制度について勉強会を行っている。また、上司や同業者からも随時指導をいただき役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分な説明を行い、それに対する同意を頂いている。契約後も苦情に対する窓口を設けていることを利用者様やご家族に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や担当者会議等で意見を頂いている。その他、電話や手紙等も活用し、意見や要望を伺うようにしている。	玄関に設置の体温計が接触式の為、衛生面での不安との意見に、非接触式の体温計を購入・設置し、家族から感謝されている。意見や要望は、マンネリ化を防ぎ、新しい視点を養う等のスキルアップに繋がるものと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	月1回の職員会議の他に日常的に全職員へ声を掛けて意見や提案を聞き出し、反映させている。	提案や意見を出しやすくする為に、プライバシーに配慮し意見用の封筒を作成してはとの意見があり、採用したところ、会議の場以外で意見が増え成果が出たと感じている。向上心を高めるため能力に合わせた役割を担って貰っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は可能な限り自ら現場に足を運び個々の意見や要望の吸い上げに努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて、当月の開催に合わせて参加を促している。	職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、職員自ら目標を立てて半年ごとに評価する人事考課システムを導入し実施している。入職時に経験や資格の有無等を確認し、個人に合わせた育成計画を立てている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町役場、地域包括支援センター主催の会議や研修会へ定期的に参加し、交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しやすい環境を整え、時間や場所にも配慮し笑顔で向き合いながら傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その時々で困りごとや悩みが変わってくる可能性もあることを考慮して、申し込みに来苑された日、契約日、利用開始初日の3回に分けて話を伺う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面談時に利用者様やご家族にとって必要と思われるサービスについて情報を整えた上で提案し同意を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来ることを提案しながら、各利用者様に役割を持って頂く等、いきがいを見つける手助けをさせていただきながら良好な関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月始めに利用者様の状況報告を行い、ご家族と情報の共有化を図っている。その他必要時は面会時や電話にて相談をしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナについて制限解除の中、少しずつ馴染みの場所や関係のあった方へ会う機会を提供している。	行きつけの化粧品店、床屋等や馴染みの親戚や友人等と関わりが持てるように支援している。利用者の希望で、飲食店や花見、道の駅等に出かけている。馴染みの方とは、面会の場を提供し、他者が気にならない配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や人間性を理解したうえで、利用者様の間に入り、コミュニケーションが図れるように声掛け等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談しやすい環境をつくり、ご家族の相談に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	日常のコミュニケーションを主としながらもご家族様からの情報も重要視して収集している。	居室で、一対一の時に思いを伝えてくれることが多く、日々の生活の満足度が聞け、これからも要望に沿った対応を心掛けると伝えている。把握した思いや意向は、職員と共有し、家族にも伝え、関係者がチームとなり利用者を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や入所後の面会の際、ご家族に生活歴などを伺い把握している。必要時はその他関係機関からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	接する機会を出来るだけ増やし、一人一人に合った生活リズムや変化を申し送りノートで共有、朝礼の時間を使い確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、利用者様やご家族より意見や要望を頂き、その情報も介護計画に反映させている。	職員と役割分担しながら情報収集を行い、様々な視点で課題を見つけて優先度の高いものから解決に向けた計画を作成している。本人・家族から要望や状況の変化がなくても、毎月・毎日深遠な目で状況を見て計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日頃の関わりの中で気づいたことなどを申し送りノートに記入し共有している。計画の見直しは職員会議の場で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関わる時間を作ることで、望んでいることを汲み取り、利用者様がその人らしく生活できる環境を提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様個人に合わせて地域資源をアセスメントし、関わりやなじみの場等の把握に努め生活をサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の希望を伺いながら、馴染みのかかりつけ医に定期的に通えるように支援している。	歯科や耳鼻科などの専門診療科目へは、主治医の判断を貰い対応している。受診は家族対応となっているが、困難な方は職員が対応している。受診結果は互いに報告し合い共有し、家族・事業所・医療機関が連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、ホームに来る訪問看護の看護師に日頃の様子や相談したいことを伝えている。変化があったり気になることがあればその都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師、ソーシャルワーカー、担当医と密に連絡を取り、情報交換に努めている。ご家族に任せっきりにならないように情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族と十分に話し合い、事業所の方針を文書化し説明と同意を得ている。また、医療機関とも連携に努めている。	重度化に対応できるよう、介護技術の指導や認知症の進行について理解を深め、家族には現状を伝え、状態を把握して、事業所でできること、困難なことを情報として共有し、本人にとって最善の選択ができるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルや職員の連絡網を作り備えている。事故等は定期的に対策の検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度避難訓練を行い、利用者様にも参加して頂いている。季節や状況に合わせた訓練も行っている。	訓練時に、消防署や運営推進委員の方に参加して貰っている。訓練後、恥ずかしがらずに大きい声を出すことが重要とのアドバイスを受けている。職員だけの避難誘導の限界を具体的に確認し、地域の方との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や人格を尊重した対応を職員全員で行えるように互いに声を掛け合い、意識しながら業務に取り組んでいる。	職員には、自分がされた時にどう感じるかを考えながら行動、ケアを意識するように伝えている。どのようにされたら嬉しいかを考えるように指導している。利用者の気持ちを汲み取り、受け止め、その上で共同生活への協力を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションを多く図ることを意識して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が望むことを優先出来るように、希望を伺いながら支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅からお気に入りの服を持ってきて頂き、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	利用者様の好みを聞く機会を作り、メニューに反映している。	行事食は、職員が利用者の気持ちに寄り添い、季節や旬に合わせたメニューを心掛けている。食事は自分のペースで焦らないように常に声を掛け、刻み食、粥等できる限りの食事形態で食べやすく提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて記録している。個々の能力に応じた食事を提供できるように観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛けを行い、一人では困難な方は必要なところを介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を取りながら間隔を掴み、声掛けを行い、本人が安心して過ごせるように努めている。	トイレで排泄する、可能な限りトイレでの排泄を掲げている。トイレ誘導の排泄パターンを評価、実践を繰り返し、失敗が減り布パンツ対応になった例がある。失敗しても、尊厳やプライバシーに配慮した対応し、原因の検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックを行い、不足している方には声をかけながら確実に摂取していただいている。好みにも注目しおいしく飲んでいただくことも意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望を伺いながら、それに応えられるように努めている。	入浴は気持ち良いもの、心地よいものと認識して貰えるよう心掛けている。入浴ができなかった方には不調がなければ翌日の入浴を調整し、困難な場合は清拭で対応している。衣類の着脱時には、羞恥心に配慮し前面に立たないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心して休んで頂けるように不安があれば声掛けに努めている。安眠しやすい環境も一人一人に合わせて提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診した場合など、薬の説明書や申し送りで全職員が確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴なども参考にしながらレクリエーションを提供し、記録することで職員間での共有、把握を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望を聞きながらこだわりを大切に地域の外出支援を行っている。	利用者の趣味や生きがい等、これまでの生活歴を考えながら外出支援をしている。広い敷地の事業所周辺を散歩したり、季節を楽しむ事のできる花見や紅葉狩りに出かけている。希望があれば、職員と一緒に買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から現金を預かり金庫に保管している。欲しいものはその金銭で購入している。ご家族には預り金報告書を送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が取れることを日頃から伝えている。要望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれる空間づくりを環境委員会を中心にしている。分かりやすいように装飾品は特に力を入れている。	共有空間や居室など、その人の好みの場所で自由に過ごして貰っている。歩行や移動の障害にならないよう、動線上に障害物を置かないようにしている。季節ごとに快適な温度や湿度を意識している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ、カウンター席があり、その時の気分で好きな場所で過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室には使い慣れた家具や希望の物を持ち込んで頂き、安心して生活出来る環境を作っている。	利用者の使いやすさに配慮してベッドの向きや器具を設置し、馴染みの器具を継続して使っている方もいる。掃除は毎朝役割分担で職員が行い、衣替えは担当職員を中心に行い、整理整頓し心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレなどの必要な部分に手すりを設置して安全な環境に努めている。		